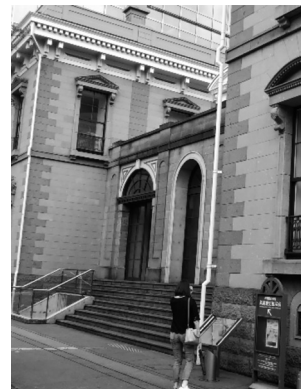


エッセイ

新橋界隈の変遷①

瀬崎 明（会員）



有楽町にあった国際善隣協会が新橋1丁目に移ったのは1965年である。

港区と中央区の境にある協会は、誰もが憧れる銀座であった。徒歩数分の新橋停車場は「汽笛一声新橋を、はや我汽車は離れたり」と小学校唱歌にも歌われた日本最初の鉄道中央駅だった。

明治初期に英国人の設計による木造石張り2階建の西洋建築は、広いロビーを有した華麗なもので、人々の目を眩らせた。中央駅としての役割が皇居前の東京中央停車場に移ると、新橋を通る新たな駅が内陸側に新設され、旧新橋駅（汐留）は貨物駅としての役割に移った。

その汐留も第二次大戦の東京大空襲により焼野が原と化した。国会議事堂を配する官庁街に通

じる新橋駅周辺には焼け跡に建つバラック小屋の闇市が残っていた頃、日本の念願であったオリンピック開催地が「64年東京」と決まり、オリンピックに向けたインフラ整備が突貫工事で始まった。各地の空港の整備、都市部を結ぶ新幹線の建設、首都圏の交通網整備に加え、宿泊施設の国際化も進められた。外国人を迎えるための国際マナー教育では、立ち小便の禁止などもうたわれた。繁華街の銀座にはデパートが立ち並び、その波は新橋にも溢れ出た。一方、港区芝公園内では東京のランドマークとなる東京タワーの建設が始

まった。豊かな時代の始まりと流行歌が街に木霊していた。「銀座9丁目は水の上 今宵は船で過ぎましよう」との神戸一郎の甘い歌声も流れていたが、歌にある銀座9丁目の地名は当然、協会ビルの隣にあるべきだったが、何処を探してもなかった。

中央区の銀座は有楽町方向から1丁目、2丁目と続いて最後が8丁目で次は港区の新橋1丁目である。「銀座9丁目は水の上」とあるように、確かに古い地図を見るとこの場所には幅広い堀割の水路があった。それは60年代に埋められて道路になった。堀は赤坂溜池から虎ノ門、新橋、有楽町に繋がる江戸城の外堀の一部であった。江戸

幕府は城下町の整備に力を注ぎ、江戸湾沿岸部の埋立てが進んだ。17世紀前半、新橋界隈には大名屋敷が連なり、汐留の大名屋敷は明治に入るまで存続した。「お江戸日本橋」と歌われたように江戸期は隣の日本橋が商業の中心地だった。

銀座は当時新両替町と称されていたが、幕府御用達の技術職人がこの辺りに集まった。金銀の鑄造に関わる職人をはじめ、能の家元、日用品や武器を作る職人などもこの地に住んだ。明治に入り首都東京の近代的装いが求められていく。

築地居留地、洋風商店の立ち並ぶ銀座煉瓦街、官庁街の霞ヶ関、中央駅玄関としての丸の内の開発など、近代都市・東京の表舞台がこの一帯となった。明治初期の銀座煉瓦街の建設は、道路拡幅と都市の不燃化を目指した最初の都市計画であった。西洋の商店街をまねて造られた銀座煉瓦街は、やがて日本一の繁華街に発展していく。